

令和元年度 第2回「みえ現場 de 県議会」 ～若者の県内定着の促進～ 実施概要

- 1 日時・場所 令和2年2月14日（金）13時30分～15時30分
三重大学 生物資源学部校舎 1階 大会議室

2 テーマ 「若者の県内定着の促進」

若者の首都圏等への流出は、地方衰退につながる大きな問題です。三重県においても、これまでさまざまな社会減対策が行われてきましたが、依然として転出超過の厳しい状況が続いており、特に進学や就職に伴う15～29歳の若者の転出超過が全体の約6割を占めています。

そこで今回は、三重で生まれ育った子どもたちが、あるいは三重で学んだ若者たちが、三重で働き、暮らし、自己実現を果たせるよう、さまざまな取組を行っている団体や企業、県民の方々等と、「若者の県内定着の促進」について意見交換を行い、今後の議会での議論に反映させていきます。

3 参加者等

- 関係者の方 5人

《高等学校卒業後の県内定着に向けた取組
～桑名工業高等学校の日本版デュアルシステムの取組～》

- ・桑名工業高等学校 デュアルシステム担当 教諭 岡 優志 氏
- ・エイベックス株式会社 代表取締役社長 加藤 丈典 氏

《高等教育機関卒業後の県内定着に向けた取組》

- ・三重大学 地域人材教育開発機構 特任講師 織田 拓 氏
- ・三重創生ファンタジスタクラブ 部長 岡田 まり 氏
- ・株式会社光機械製作所
品質保証室 室長 兼 ひと・ものづくり研究室 室長 米川 嘉英 氏

- 一般公募の方（若者の県内定着に関心のある15～29歳の方） 5人

- ・三重大学 学生 北森 輝 氏
- ・株式会社 Dream3.0 代表 黄山 昇 氏
- ・三重大学 学生 村木 美布 氏
- ・三重大学 学生 大塚 理香子 氏
- ・三重短期大学 学生 黒木 亮佑 氏

- 県議会議員（下線は広聴広報会議委員） 9人

中嶋年規 議長、北川裕之 座長（副議長）、川口円 委員、
石垣智矢 委員、山本佐知子 委員、倉本崇弘 委員、山内道明 委員
東 豊 議員（戦略企画雇用経済常任委員長）
田中智也 議員（教育警察常任委員長）

- 傍聴者

21人

4 プログラム

- 1 開会あいさつ
- 2 参加者の自己紹介
- 3 参加者の活動紹介
- 4 意見交換
- 5 閉会あいさつ

5 主な意見

《桑名工業高等学校の日本版デュアルシステムの取組》

- (1) デュアルシステムが一番良いところは、ミスマッチをなくし、離職率を少なくしていくこと。高校生のときから現場で働いて、製造業の良いところも嫌なところも全部見てもらって、本当に一生やれる仕事かどうか、高校生のうちから自分で判断することは大事だと思う。
- (2) 自分たちのアイデアが「物」に変わり、それが売れるという「成功体験」を実際にすることで、「自分たちでも何かできるんだ」という意識に変わり、その時に初めて自分たちの将来を本気で考えだす。
- (3) 「成功体験」は、工業高校だけでなく、商業、普通科でもできると思うので、うまく教育の中で活用し、「自分たちは何がしたいのか」、「何ができるのか」、考えさせることがすごく大切だと思う。
- (4) 学生が「成功体験」を得て、「自分はこれをやりたい」となった時に、三重県の企業や、三重県が抱える課題の解決とちょうどマッチすれば、定着に繋がっていく可能性が高いと思う。
- (5) 本当にしたいことがあって、それが地元の企業でできるのであれば、それは定着に繋がっていく。
- (6) デュアルシステムは生徒だけでやれるものではない。教員がいろんな企業とお話する機会を設けるような仕組みがあればと思う。
- (7) 企業から、「学校に就職案内を出したいがどうすればいいかわからない」、「学生といろんなことがしたいが、まず入り口がわからない」と言われるが、学校の事務所にふらっと来て言っていただければ、できそうな人に繋いでくれるといった、そんなラフな感じである。学校側も同じで、学校の先生も、外に歩かれていくことがまず第一歩だと思う。
- (8) 桑名工業高校のデュアルシステムは、今は革新的に取り組んでいるが、人につくというところがどうしてもあるので、持続的な仕組みとして同じような形で回っていくかということ、企業としては心配なところがある。
- (9) ベクトルをどうやって合わせていくかということを考えると、横展開はなかなか難しいかと思うけれども、デュアルシステムは県内でやっていけない事業だと思う。
- (10) 学校が、デュアルシステムをやっていくので保護者も協力をお願いします、と言うだけでなく、保護者の方々にも心から「ここに行かせたい」、「ここに行ってよかった」と思ってもらえるよう保護者向けの事前学習を行ったところ、兄弟そろって桑名工業高校に入学するなど、リピーターが増えてきた。

- (11) デュアルシステムはすごく良いシステムで、工業高校や商業高校は特にやりやすいと思うが、工業高校へ進学する生徒が減ってきている中、小中学校へ、工業高校の良さをどんどんPRしていった方が良いと思う。
- (12) 採用に関しては、三重県という地元、特に桑名でどうやって会社を知ってもらうかということが企業としては一番大事である。地域に喜んでもらえるお金の使い方をしていくことで、雇用の確保のきっかけになり、そこからの広がりもあるのではないかと考えている。

《高等教育機関卒業後の県内定着に向けた取組》

- (13) 三重創生ファンタジスタ資格は、資格がどうこうではなく、本当に学生が地域に愛着をもってもらえるかが大事。県内の人にも、県外の人にも、やっぱり三重県の魅力は伝わっていない。こういったことは授業だけでは限界があるので、座学ではなく外に出て行く活動を行っている。
- (14) 就活の時期になると学生は皆悩む。大学生の多くは「何がしたい」という思いはほとんどなく、ある程度安定して生きていければそれで良いという状態なので志望動機が書けない。そういう状態をなくしていきたい。
- (15) 今は何がやりたいか分からなくても、目の前にあることに一生懸命になったり、ちょっと面白そうということに積極的に首を突っ込んでいったりする学生は、そこで何かを掴むきっかけが得られると思う。
- (16) 地域に定着するには、そこでの成功体験がとても重要であるので、そういうきっかけを学生たちに与えてあげたい。
- (17) 地方創生は課題が明確だし、若い人が行くだけでも結構喜ばれる。そこで地域の人たちとのコミュニティが生まれ、感謝されることで、それが成功体験になれば、その地域の定着に繋がるんじゃないかと思う。
- (18) 三重創生ファンタジスタクラブの活動を通して、三重県の魅力を学んだ。今度は自分が他の学生たちに伝えていきたい。
- (19) 三重県の現状ではいけないという認識を持って勉強したり体験したりするのがCOC+だと思っている。取組の中で、三重県で踏ん張ってる企業はどんな会社なのか、見てもらうのは良かったと思う。
- (20) 県内での就職を希望する人はいっぱいいると思う。そういう人がちゃんと留まれるような状況をオール三重で作り、どこの地域でもそういう人がちゃんと残って幸せな人生を歩めるというのが出来ないかなあと思う。
- (21) 座学で得た知識は、そこから何かに繋がっていくとか、社会に役立つかという、幅が狭いと思う。現地で体験するということがすごく大事。
- (22) 企業と若いうちから繋がったり、いろんな人と出会ったりする機会はすごく大事だと思う。同年代や他の世代の価値観、考え方、いろんな業種を知っていくことで、地元に対する課題なりその解決の幅は広がっていくのではないか。
- (23) 現代の若者は都会に行きたいという思いが強いと思う。三重の一次産業の良さをもっと伝えていくべき。

- (24) 都会から三重に来て、三重創生ファンタジスタクラブに入ったが、すごく刺激的なことが多く、都会と三重の違いを肌で感じている。三重には三重の、自然の中で遊ぶとか、そういう遊び方もあるんだということを教えてもらった。
- (25) 三重で生まれ育ったが、中学校、高校の頃からずっと都会への憧れはある。流行りとかも全部都会から始まっていて、交通の便も良く、何かやりたいと思っても、やっぱり都会に行ったほうがやりやすい。また、人が多いので、人と出会う確率みたいなものも高くなるので、新しいことをやるには都会にいた方がいいんじゃないかと感じてしまう。
- (26) C O C +は今年度で終わり、コンソーシアム三重というものに移行する。大学の事業計画では続けていくとなっているが、補助金などもなくなり、再来年はどうなるかわからないという状態。
- (27) 三重県に定着と言わなくても、「自分はこういう強みがある。こんなことができる」と気づいた時、都会に出た方が自分の強みが発揮できて、逆に三重県のことを思って都会から何かを発信するということも考えられる。
- (28) 都会は人が多すぎて、どのジャンルにいても自分よりも能力の高い人がいるので、自分の強みが見えない。人の少ないところに行った時に、自分が普通にできると思っていたことが賞賛されたりするので、自分に自信がつく。
- (29) 議員の方々も、学生とコミュニケーションをとってもらえればその子たちの強みとか良さっていうものが分かるので、その時にこういう予算があるとか、三重県ではこういう企画しているからちょっとやってみたら、ということをどんどん発信してもらえればありがたい。
- (30) 若い方々の都会へのあこがれを折らせるというのは、大人のエゴだと思う。一方で、地方でもすごく面白いことがある、面白いことができるっていうのを皆さんに理解してもらうのは大人の責任だと思う。
- (31) 地方に根ざしたもので、その地方にしか無いものの魅力をどう磨き上げ、表に出していくか。その取組をしっかり行っていくことで、若者にここで生活したいと思える環境を作っていくことが重要だと思う。
- (32) 三重県で生まれて育ってきた若い人たち、そしてまた、三重県に来て暮らしてくれている若い人たちが幸せでいられる、そんな場面を提供できるよう、議会として改めて考えて頑張っていきたい。